

保健体育科教育法Ⅱ

科目ナンバリング ESS-314
教職 選択 2単位

高田 彬成

1. 授業の概要(ねらい)

中学校保健体育科教員としての基礎的・基本的な指導力を身に付けるために、保健体育科の指導案作成の基盤となる「教材観」や「指導観」について学ぶとともに、領域別・学年別の目標や内容、小学校から中学校、中学校から高等学校への接続を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項について学ぶ。また、学習指導案の作成・発表、および模擬授業や事後研究協議を実際に行う。

2. 授業の到達目標

- (1) 中学校保健体育における各運動領域・種目等の「運動の特性」(機能的特性・効果的特性・構造的特性)や「成り立ち」などについて理解する。
- (2) 各運動領域・学年別の目標・内容に応じ、各校種間の接続を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項や教材開発の視点について理解する。
- (3) 学習指導案(単元計画・本時案等)の作成・発表、発表に対する相互評価活動、模擬授業・事後研究協議を通して、実践的な指導力を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

授業内課題(35%)、指導案作成・発表(30%)、テスト(35%)で、総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』 東山書房
本村清人他 中学校検定教科書『保健体育』 大修館書店

5. 準備学習の内容

- (1) 中学校学習指導要領解説や授業配付レジュメを読み込み、用語や内容を理解するなど、常に予習・復習をする。
- (2) 文部科学省(スポーツ庁)や都道府県の体育・スポーツ情報、体育・スポーツニュースに関心をもち、自ら専門的知識を積極的に入手し、理解する。
- (3) 教育実習に備えて、指導案の例を参考に全ての領域で指導案を自主的に作成する。
- (4) 教育実習での指導場面を想定して、教材開発関連資料を積極的に収集し、整理する。

6. その他履修上の注意事項

- (1) 春季開講の「保健体育科教育法Ⅰ」を併せて履修する。
- (2) 教職を目指す学生に相応しい態度で受講し、自立して学習する。
- (3) 本気でよき保健体育科教員を目指し、常に教育や学校現場を想定して積極的に学習する。

7. 授業内容

- 【第1回】 ・オリエンテーション(シラバス概要、成績評価方法等の説明)
・教材研究(指導案作成)対象領域の選択
- 【第2回】 ・授業づくりと学習過程(これまでとこれから)
・「体づくり運動」の指導案例と指導案作成作業
- 【第3回】 「体づくり運動」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第4回】 「器械運動」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第5回】 「陸上競技」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第6回】 「水泳」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第7回】 「球技(ゴール型)」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第8回】 「球技(ネット型)」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第9回】 「球技(ベースボール型)」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第10回】 「武道(柔道、剣道、その他の武道)」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第11回】 「ダンス」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第12回】 「体育理論」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第13回】 「保健分野」の授業づくりと教材研究(指導案作成・発表、研究協議)
- 【第14回】 中学校保健体育科におけるよい授業の条件についての整理
- 【第15回】 まとめ(教材研究の視点等)と指導案・課題レポートの提出